

漆文化を残し伝える取り組み

安比川流域の漆器文化を伝える塗室

江戸時代、安比川流域では豊富な森林資源を生かした漆器生産が行われていました。

昭和初期以降は、戦争の影響や時代の変遷とともに瀬戸物や安価なプラスチック製品が市場を席卷し、漆器生産は衰退していきました。

当時、漆を塗る職人の各家にあった塗室(漆を塗る職人が作業をする部屋)は、現在では県内で唯一、浅沢地区岩屋の小山田家塗室が残っており、当時の漆器文化を知る上で重要なものとなっています。



小山田家塗室

漆器生産の再興を目指し、昭和58年に安代町漆器センター(現・八幡平市安代漆工技術研究センター)、平成11年に安比塗漆器工房を設立。現在は「安比塗」として、受け継がれています。

漆室保存で研究者たちが意見交換

ミニシンポジウム「3D技術と漆器文化:岩手に現存する最後の塗室～最新技術で保存する岩屋小山田家塗室～」は9月24日、県立大学(滝沢市)で開かれました。

同シンポジウムでは、三須田善暢氏ら県立大石神研究グループの他、榊原健二氏(株式会社TOKU PCM)、高橋勇介氏(岩手工藝美術協会顧問)、当館の外崎理紗学芸員が登壇。安比川流域で栄えた漆器産業の歴史を報告したほか、塗室を撮影した映像やレーザー計測データなどを基に、最新の3D技術で復元する方法や、模型を作成して多くの人に関心を持ってもらう活用方法を紹介。現存する塗室の今後の保存方法を探りました。



安比川流域の漆器産業などを説明する外崎学芸員

文学散歩で陸前高田市へ

復興へと歩む陸前高田市を訪ねる

市立図書館では、10月24日に文学散歩を開催し、20人が参加しました。今回の文学散歩は、震災復興へと歩む陸前高田市を訪ねました。

晴天に恵まれ、ガイドの案内で震災遺構の気仙中学校や道の駅高田松原タピック45、建物に被災松が使用された震災追悼施設、7月に新しくオープンした



震災遺構の道の駅高田松原タピック45

陸前高田市立図書館を見学しました。

参加者は「実際に見学して津波の恐ろしさを感じた」「今後の復興についても考えさせられた」などと感想を述べました。



東日本大震災追悼施設前:背後の赤い看板の高さまで津波が押し寄せました

◆一足早いクリスマスお話し

市立図書館では、一足早い「クリスマスお話し」を開催します。参加者には、手作りのプレゼントもあります。

▶開催日 12月2日(土)

▶時間 午後0時半から3時まで

▶内容 巢内文恵さん(岩手町)によるわらべ歌や松ぼっくりツリーの工作など

◆図書館の開館時間が変わります

12月2日(土)から3月末までの期間、図書館の開館時間が下記の通り変わります。

▶月曜日から土曜日:午前9時から午後6時まで

▶日曜日・祝日:午前9時から午後5時まで

※本の返却は返却ポストを利用できます。

※松屋・荒屋両コミュニティセンター図書室は変更ありません。